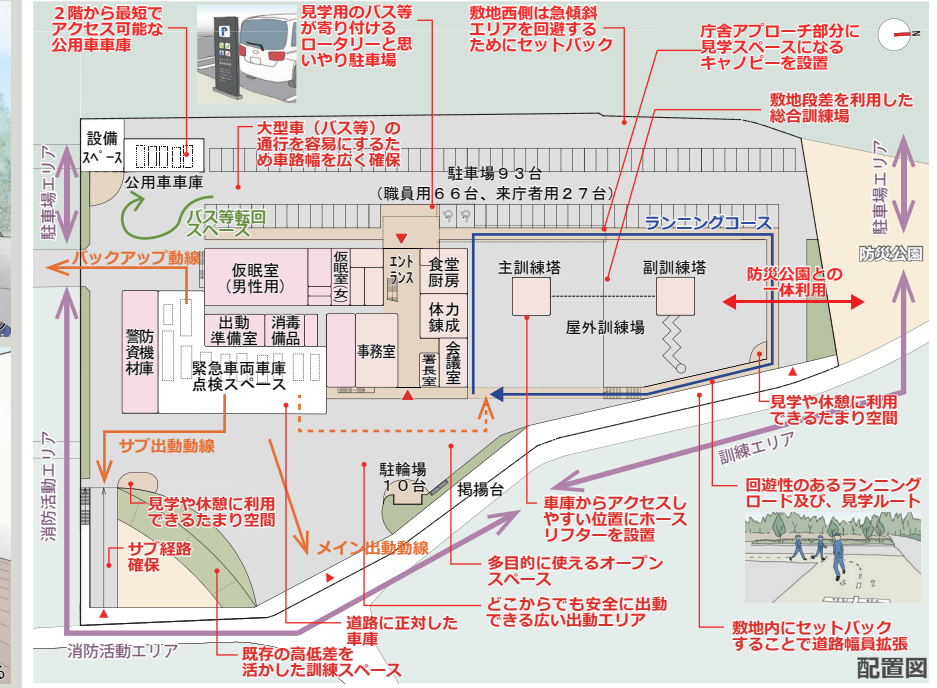
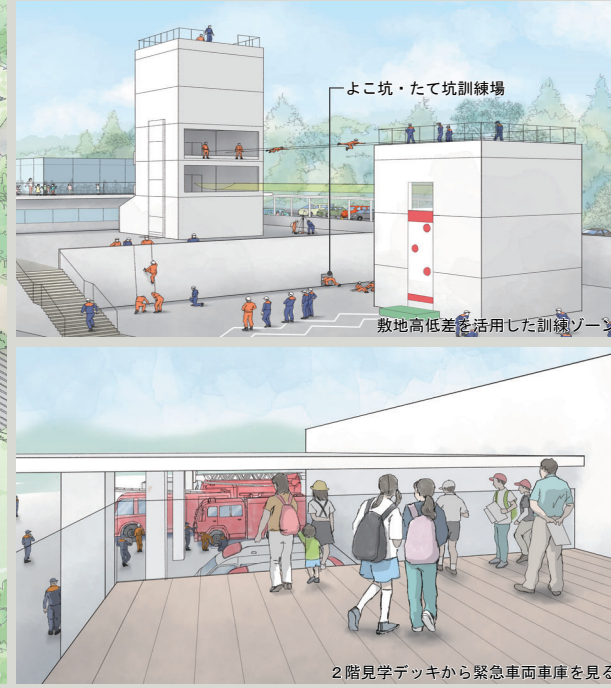
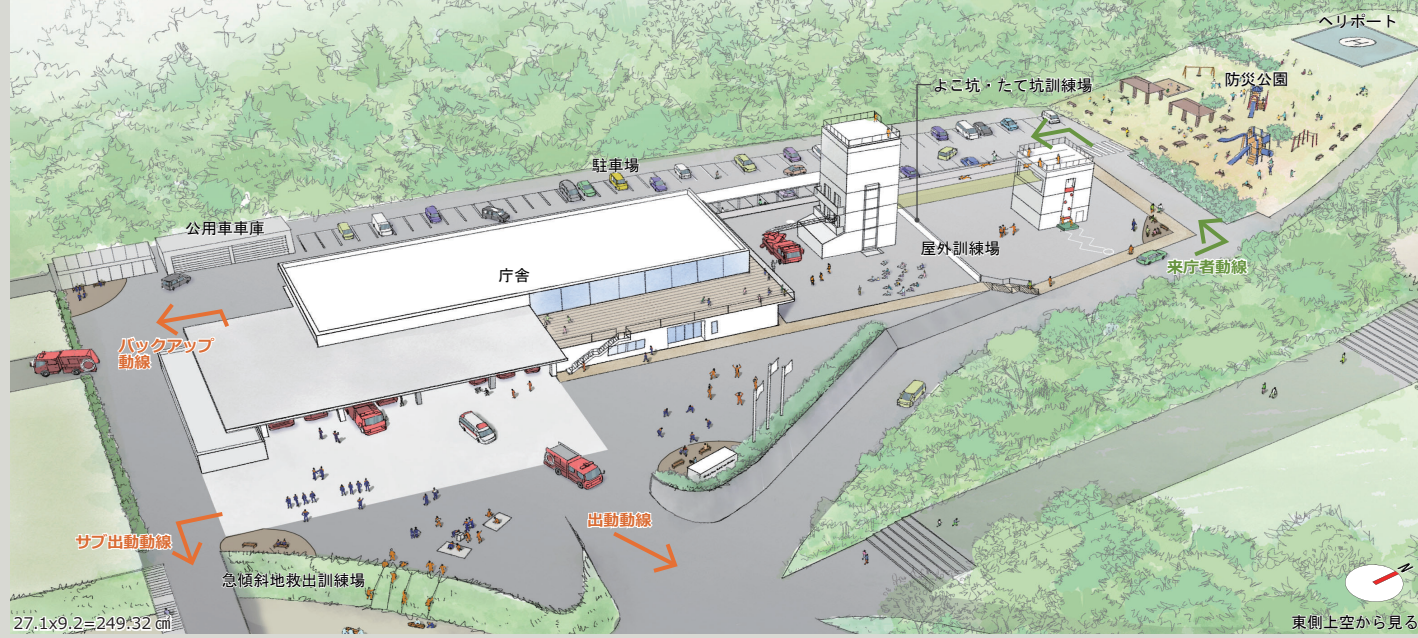
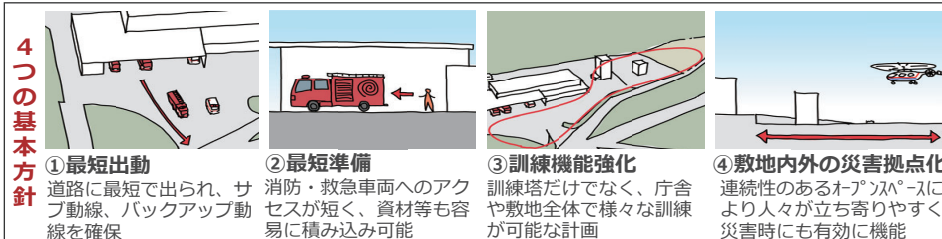


「防災拠点としての配置計画及び動線計画」「消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画」「消防力の維持・向上、住民の防災意識高揚が図れる庁舎」「誰もが使いやすく開かれた庁舎」

備北 防災の丘公園 ～地域を守る総合防災拠点～



敷地の東側を広く確保し、建物を南北に配置することで敷地のどこからでも迅速に出動が可能な計画です。消防車両や訓練風景を容易に見学でき、将来計画の防災公園との連携にも配慮しました。



区分	概算工事費
新築	
建築工事費	1,120,000 千円
電気設備工事費	360,000 千円
機械設備工事費	180,000 千円
想定する㎡単価	514 千円 / ㎡
外構工事費	110,000 千円
総工事費	1,770,000 千円

テーマ1「防災拠点としての配置計画及び動線計画」について

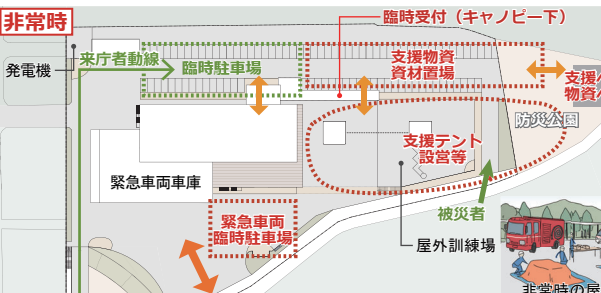
緊急車両の安全かつ迅速な出動を担保できる施設配置と動線計画

- 消防署は消火・救助活動のために『確実・迅速・安全』な出動が必須となることから、消防活動エリアと来庁者・駐車場エリアを明確に区分したゾーニングとします。
- 一般車両と緊急車両の動線交錯を回避することで、安全で迅速な出動が可能です。
- 車庫を道路に正対させ、仮眠室や出動準備室等の出動関連室は車庫の中心に集約配置することで出動動線を短縮します。
- 車庫は東西2面開放とすることでバックアップ経路への接続が容易に行え、いかなる状況においても、消防署としての機能維持ができる施設を実現します。



非常時に利用しやすい施設配置及び臨時的な敷地の利用計画

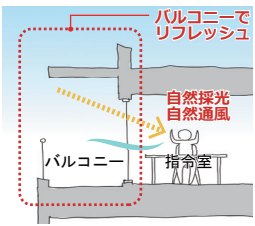
- 非常時に、訓練エリア・駐車場エリアを災害対策スペースに転換できる計画とします。
- 地域住民の退避場所や全国各地からの緊急消防援助隊などの円滑な受入れを可能とするために広範なスペースが必要となるため、相互を近接配置することで一体的な利用を可能とします。
- 将来構想がある防災公園との連携も視野にいたった配置計画とすることで、大規模災害発生時の地域中核防災拠点として整備します。



テーマ2「消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画」について

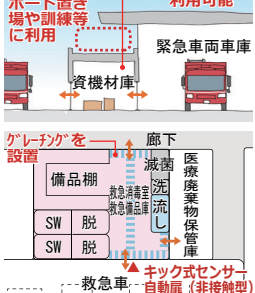
24時間稼働を支えるため健康的かつ効率的に執務できる施設

- 職員が快適に活動できる執務・生活環境となるように事務室、食堂、会議室などの主居室は自然採光、自然換気とします。
- 仮眠室は内装を木質化し、遮音性能の高い間仕切りや扉を採用することで、睡眠の質を向上させます。
- エントランスや、ホワイエ、バルコニーなど、職員がリラックスできるスペースを随所に設け、効率性の向上を図ります。



緊急時には迅速に機材にアクセスできる施設

- 資機材庫は車庫の内外から利用でき、間口を広く確保することで、どこからでも利用しやすい計画としています。
- 資機材庫の屋上は屋根の掛かっただ半屋外スペースとすることで、雨の日の訓練やボート保管等にも利用可能です。
- 救急消毒室及び救急備品庫は救急車に隣接させることで効率性向上に配慮した配置計画とします。救急活動から帰還した隊員の衛生面に配慮し、出入口は間口を広く確保したキックセンサー（非接触型）の自動扉を採用します。

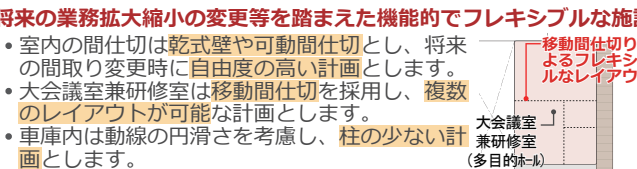


高機能消防指令システムの更新を見据えた施設

- 指令事務室の両隣に通信指令室と対策室を同仕様で設け、事務室との連携を活かしたまま更新できる計画とします。また、空調や電気の系統を分けることで、円滑な更新が可能です。

円滑なコミュニケーションや指示の迅速な伝達が可能となる施設

- 1階を消防署、2階を本部とし、階ごとに明確なエリア分けをすることで、部署内の迅速な伝達や、円滑なコミュニケーションを可能とします。
- 部署間はエントランスホールの吹抜により一体的な空間を形成し、相互の連携を促す設えとします。
- 大会議室兼研修室は非常時の際に、災害対策本部として使用することから2階に配置します。常に状況が把握できるように屋外災害対策スペースに近接させ全体が見渡すことができる計画とします。



将来の業務拡大縮小の変更等を踏まえた機能的でフレキシブルな施設

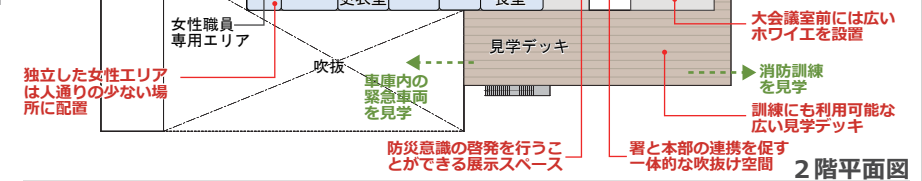
- 室内の間仕切りは乾式壁や可動間仕切りとし、将来の間取り変更時に自由度の高い計画とします。
- 大会議室兼研修室は移動間仕切りを採用し、複数のレイアウトが可能な計画とします。
- 車庫内は動線の円滑さを考慮し、柱の少ない計画とします。



テーマ3「消防力の維持・向上、住民の防災意識高揚が図れる庁舎」について

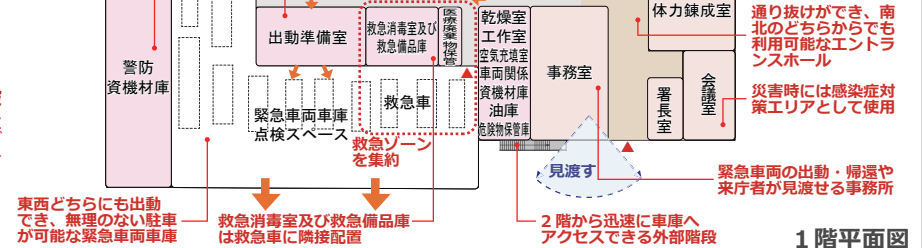
高層訓練塔、震災土砂災害訓練等の総合訓練スペース

- 屋外訓練場だけでなく、庁舎自体や敷地の至るところで様々な訓練が行えるようにすることで、複雑多様化する災害に対応できる消防力を養います。
- 屋外訓練場は、既存の敷地高低差を利用し、よこ坑・たて坑訓練や急傾斜地救出訓練などを行える総合訓練場として整備します。
- 高層訓練塔（主訓練塔）と副訓練塔は濃煙検索、救助基礎訓練（はしご登はん、ロープ応用登はん、引揚救助）など、多岐にわたる訓練を可能とし、消火・救助技術の習得、知識の継承などが行える施設を計画します。



住民を対象とした防災意識の啓発や講習等の実施施設

- 煙体験、消火体験など、住民も訓練に参加ができる体験型訓練施設を整備し、地域全体の防災力向上に寄与します。
- 庁舎アプローチのキャノピーは見学ルートにもなり、日差しや雨の影響を受けない『たまり』空間となります。また、庁舎2階の見学デッキからも、訓練や車庫内を見ることができ、地域住民の防災意識高揚を図ります。
- エントランスや2階ホワイエには、防災意識の啓発を行うことができる展示スペースを設けます。



テーマ4「誰もが使いやすく開かれた庁舎」について

誰もが利用しやすい施設について

- 敷地の東側を広く連続性のあるオープンスペースとすることで、様々な訓練や体験、見学ができる空間にすることで、公園のような使いやすさ開かれた庁舎を目指します。
- 出動動線と来庁者動線を明確に区分することで来庁者にわかりやすい施設とします。
- EVの位置やわかりやすいサイン計画、おもいやり駐車場など誰もがわかりやすく安全に利用できる計画とします。



女性職員も働きやすい施設計画について

- 清潔感やデザイン性のある建物内装や外観色彩計画とすることで、女性でも安心して働ける施設計画とします。

(注) 用紙は、日本工業規格A列3番とする。